

溪流再生を活用した地域づくり

A case study of regional vitalization utilized torrent regeneration works*

藤森克也** 小林功樹*** 藤本雅樹****

By Katsuya FUJIMORI** ・ Kouki KOBAYASHI*** ・ Masaki FUJIMOTO****

1. はじめに

多くの人々が訪れる魅力ある地域づくりをするためには、その地域にある自然、歴史、文化、風景などの地域資源を活用して、地域固有の価値を創造していくことが重要である。

しかし、地域資源価値が他の地域に比べて優位性がなく差別化がはかれない、また地域資源がうまく生かされていないなどのために、地域のイメージを明確に構築することができず、地域の活性化につながっていない場合もある。このため、地域資源の価値を適切に評価して、いかに地域資源を活用していくか、その手法を工夫することが必要である。

ここでは、自然的・文化的な地域資源となっている田原の滝の溪流再生において、その価値が十分にいかされるように、整備手法を工夫するとともに、再生された滝を活用した種々の取り組みを実施して、地域づくりに貢献している事例を紹介する。

2. 田原の滝の自然

田原の滝のある相模川は、その源を富士五湖の一つである山中湖に発し、山梨県の富士・東部地域を流れて神奈川県に入り、相模湾に注ぐ幹川流路延長109 km、流域面積1680 km²の一級河川であり、山梨県内では桂川と呼ばれている。おおよそ8,000年前に富士山の活発な噴火活動により猿橋溶岩と呼ばれる多量の溶岩が噴出して、大月市の猿橋にまで達しており、この溶岩を長年にわたっ

て桂川が浸食して、深い渓谷を刻んでいる。渓谷を形成する溶岩は、冷えて固まるときに体積が収縮して、縦方向に多角形の柱が林立したような柱状節理がつくりだされ、田原の滝や蒼竜峡などの趣のある溪流美を誇る景勝地を造形している。田原の滝は、しぶきをあげて水が流れ落ちる様子から白根の滝、白滝とも呼ばれており、古くからその溪流美が愛でられてきた名瀑布であり、江戸時代には富士山に参詣する人々の、いまでは観光客などの目を楽しませてくれている。



写真1 明治末期頃の田原の滝

3. 谷村と松尾芭蕉

田原の滝がある都留市は、江戸時代には谷村藩の城下町であり、鳥居家および秋元家により治められていた。谷村は山梨県の富士・東部地域である郡内地方の中心として栄えたが、秋元家の3代藩主喬知が武蔵国川越藩に移封された後は、徳川幕府直轄地となった。徳川將軍家御用達の宇治採茶を江戸城に運ぶ「茶壺道中」の途中に、一部は保存と熟成のため谷村勝山城で夏の間、茶壺蔵へ格納されたことがよく知られている。

この谷村には、一時、松尾芭蕉が滞在している。松尾芭蕉は江戸深川の小名木川が墨田川に流入する合流部に

*キーワード: 地域づくり 溪流再生

**非会員 課長補佐 山梨県県土整備部砂防課

(山梨県甲府市丸の内1-6-1)

TEL:055-223-1710 FAX:055-223-1714

***非会員 主査 山梨県富士・東部建設事務所

(山梨県大月市大月町花咲1608-3)

TEL:0554-22-7816 FAX:0554-22-7855

****非会員 副主査 山梨県富士・東部建設事務所

吉田支所

(山梨県富士吉田市上吉田1-2-5)

TEL:0555-24-9044 FAX:0555-24-9052

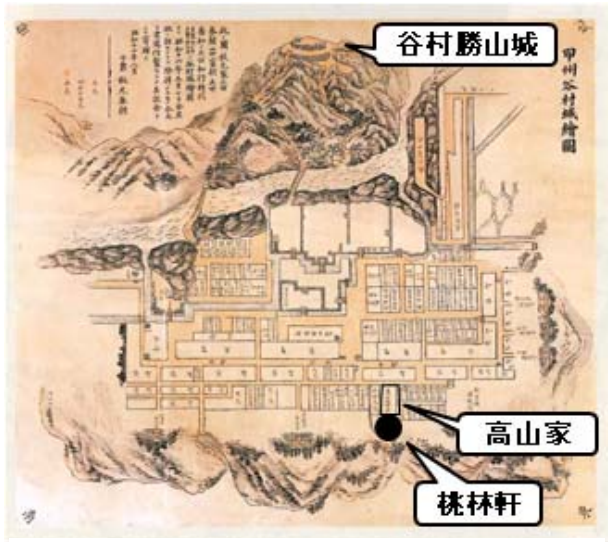


図1 甲州谷村城絵図

芭蕉庵を構えていたが、天和二年の暮れの江戸の大火に見舞われて庵を焼き出され、弟子である秋元家の国家老高山傳右衛門（俳名麿時）に招かれ谷村に流寓している。谷村藩秋元家の江戸屋敷は芭蕉庵から近い小名木川沿いや墨田川の対岸にあったため、傳右衛門は芭蕉の門下生となり、親しく指導を受けたと考えられている。¹⁾

芭蕉は、谷村滞在中は「桃林軒」と名付けた高山家の屋敷の離れで過ごし、この地で多くの名句を残している。

田原の滝にも訪れており「勢いあり氷消えては瀧津魚」と句を詠んでいる。旅に明け暮れた芭蕉にとって、谷村で過ごした約五ヶ月間は彼の生涯の中で最も長い逗留であり、その後の俳諧にも影響を与えたと言われている。

4. 田原の滝の溪流再生

田原の滝はかつて上下2段の滝から成り、下段の滝は



写真2 昭和33年に設置された砂防堰堤

高さが20mほどもあり、水量も豊富で滝の響きは遠方まで聞こえたといわれたが、明治31年に両岸が崩落し1段の滝となり、大正12年の関東大震災以降は崩壊が進んで滝の位置が30mほど後退した。昭和33年に周辺の人家や公共施設の安全を確保するために高さ10mの砂防堰堤が設置されたが、むき出しのコンクリートにより趣のある溪流景観は失われていた。砂防設備の老朽化を契機にして、溪岸浸食の防止とともにかつての美しい滝を復活するために補助砂防事業による溪流再生を平成9年度から実施し、平成21年度に完成したところである。

溪流再生にあたっては、地元有識者等の意見を反映するために、意見交換会を3回開催して、基本方針や整備方針を整理しており、景観、自然環境、鑑賞などを意識した空間を創出している。総事業費は570百万円であり、事業の概要は次のとおりである。

(1) 施設改修および溪岸浸食防止

老朽化した砂防設備を補強するために、本堰堤および副堰堤の下流側にそれぞれ腹付けコンクリートを約2mの厚さで施工するとともに、陥没が生じていた既設水叩きを撤去して新たに厚さ3mで水叩きコンクリートを設置した。また、溶岩の縦横浸食を防止するために、堰堤下流の溪岸に側壁コンクリートを施工するとともに、堰堤上流の1段目の滝の周囲にも側壁コンクリートを施工した。

(2) 景観形成

松尾芭蕉が俳句を詠んだ趣のある溪流美を復活させるため、修景工事を実施して、溶岩の柱状節理景観と違和感を感じさせない美しい溪流景観を形成した。景観デザイン設計にあたっては、田原の滝周辺の実物の溶岩の柱



写真3 再生された田原の滝



写真4 田原の滝公園を訪れた「駅からハイキング」の参加者

状節理形状にあわせた縮尺1/50のスタディ模型を作成し、岩の形状、肌、色など詳細な景観イメージをつくりだした。この模型を基に、既設堰堤や下流側壁には擬岩パネルを据え付けるパネル工法を、また上流側壁には現地にて擬岩を造形していくハンドカービング工法を採用して施工した。忠実な柱状節理を造出するために、芸術性を備えた作業員たちがモルタルを塗ったり、削り込んだり、顔料を吹き付けたりして、風雨にさらされた柱状節理の風合いを出すようにした。

5. 滝に近接した公園の整備

滝を見学する際に小休止をとるとともに、訪れる人が滝の変遷や溪流再生を学べて砂防事業への理解が深まるように、都留市と連携をはかり、滝の近くに小公園（田原の滝公園）を整備した。公園は周辺の景観と調和のとれたデザインにするとともに、植栽やベンチ、解説板を設置して、大勢の人々が利用できる空間を創出している。



図2 パンフレット(案内イラスト)

また、公園の中に、都留市と松尾芭蕉の関わりなどを学べて地域学習ができるとともに、都留市の観光拠点としても活用されるように、松尾芭蕉や田原の滝で五言律詩を詠んだ藤堂良道に関する解説板を設置したり、目立たない場所に建っていた芭蕉の句碑を移設した。加えて、公園のシンボルとして松尾芭蕉の石像を設置して、記念写真スポットとするなどの工夫を凝らした。

6. 田原の滝を活用するソフト

田原の滝の周辺には、奇岩が続く秘境の蒼竜峡、平成の名水百選に選ばれた十日市場夏狩湧水群などの名所が近接しているとともに、都留文科大学、都留市文化ホール、都留市総合運動公園などの公共施設も位置している。また、滝は国道139号に隣接しており、中央自動車道都留IC、富士急行十日市場駅などにも近いこと、交通アクセスにも優れており、多くの人が集まる場としてのポテンシャルが高い。



写真5 パンフレット(芭蕉ゆかりの地の解説)



松尾芭蕉ゆかりの城下町・都留から「平成の名水百選」に選ばれた十日市場・夏狩湧水群を歩きます。
松尾芭蕉ゆかりの都留市の玄関、都留市駅をスタートし、市内に点在する松尾芭蕉の句碑を巡ったあとは、「平成の名水百選」に認定された十日市場・夏狩湧水群を訪ねるコースです。



図3 JR主催の「駅からハイキング」のコース(JR東日本パンフレットより引用)

地域振興を考える際、甦った溪流景観だけを資源とするのでは、資源そのものの優劣に集客力が大きく左右されることになるため、田原の滝では他の地域との「差別化」が必要になる。滝に関係がある都留市固有の地域資源には松尾芭蕉との関わりがあり、ここにしかない地域らしさを工夫して演出することにより観光振興や文化振興の発展に繋がる。こうしたなか、都留市などではイベント開催などを展開しているが、県でもパンフレット作成や滝のガイドを実施するなどの支援を行っている。

(1) パンフレットの作成

松尾芭蕉は谷村滞在中に多くの名句を残している。都留市にはこの名句を刻んだ句碑が点在しており、ここを目的に訪れる観光客も多い。観光客のニーズにあわせて、芭蕉ゆかりの場所の観光巡りを楽しめるように、句の解説および句碑の場所を記載したパンフレットを作成した。パンフレットは、地元関係者の協力を得て、イラストと写真を中心にした構成で作られており、サイズも工夫して、訪れた人がこれを手にして楽しめるようにした。

(2) イベントの開催

多くの人々に訪れてもらうためには、ハードとソフトが一体となった戦略が必要である。特に、ソフト面では、地域とのふれあい、おもてなしの心を感じる体験型の観光に関心が強くなっている点に考慮する必要がある。

都留市では富士急行やJRと共同で企画する「富士急遊～YOUハイク」「芭蕉句碑めぐりスタンプハイク」「駅からハイキング」などが開催されており、大勢の人が参加して、盛り上がりを見せている。このツアー経路には田原の滝が立寄場所に含まれており、溪流再生や小公園の整備により、田原の滝がこのツアーの中心となっている。参加者は、ここで休憩をとりながら歴史や文化を学ぶとともに、美しい溪流景観を楽しんでいる。この際、県職員が案内員となり情報を発信するとともに、参加者からの質問や意見を聞くことで双方向のコミュニケーションづくりを図っている。

7. おわりに

美しい景観が再生した田原の滝は、都留市の代表的な景勝地として観光パンフレットに掲載されるとともに、様々なホームページで紹介されている。また、平成17年には都留市指定名勝に指定されるとともに、今年2月には市民が選出する「平成の谷村八景」のひとつに選定されている。

一方、田原の滝では、地元住民等が参加して河川清掃やこいのぼり祭りが実施されており、溪流を再生したことで、川への愛着が深まり環境意識が向上したとともに、環境教育の場としての活用も見込まれている。

以上、溪流再生を活用した地域づくりを紹介してきたが、土木構造物を活用することで、社会へのアピールをするとともに、土木技術者としての新たな認識と誇りなども培われていくものと期待されている。



写真6 平成の谷村八景の新聞記事
(平成22年2月16日 山梨日日新聞より引用)

参考文献

1) 高取堅二: 芭蕉谷村藩流寓余聞, なまよみ出版, 2000